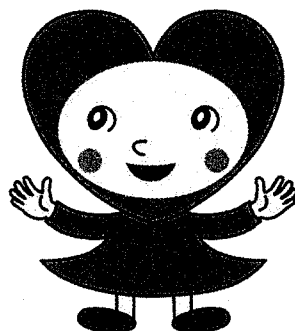


令和5年度  
第4次能美市地域福祉活動計画[2年目]

# 評価委員会報告



地域福祉推進のマスコット  
のみんちゃん

社会福祉法人能美市社会福祉協議会

## 令和5年度 第4次能美市地域福祉活動計画評価委員会

### ◇ 委員名簿

栗山	よしみ	評価委員会	委員長	
西川	方敏	評価委員会	副委員長	
吉田	良	〃	委員	
高田	茂	〃	委員	
津田	康則	〃	委員	(こころに寄り添い合う人づくり委員会 委員長)
小西	彰子	〃	委員	( 〃 副委員長)
外山	ひとみ	〃	委員	( 〃 副委員長)
藤田	珠美	〃	委員	(見守り・助け合い推進委員会 委員長)
辰巳	平一	〃	委員	( 〃 副委員長)
吉田	則明	〃	委員	( 〃 副委員長)
近藤	沙夜里	〃	委員	(くらし応援委員会 委員長)
谷田	好子	〃	委員	( 〃 副委員長)
立花	秀人	〃	委員	( 〃 副委員長)

### ◇ 目次

1. 第4次能美市地域福祉活動計画2年目の取り組みについての報告	・・・ 1
評価委員会副委員長 西川 方敏	
① 評価の視点	・・・ 2
② 各委員会の報告	・・・ 3
③ まとめ	・・・ 5
④ 報告と公表	・・・ 5
2. 3委員会の評価シート・経過シート	・・・ 6
3. 第4次能美市地域福祉活動計画の指標	・・・ 12
4. 第4次能美市地域福祉活動計画の2年目の推進体制	・・・ 15
5. 能美市地域福祉活動計画評価委員会に関わって	・・・ 16
評価委員会アドバイザー 井岡 仁志	

## 1. 令和5年度 第4次能美市地域福祉活動計画2年目の取り組みについての報告

第4次能美市地域福祉活動計画評価委員会  
副委員長 西川方敏

第4次地域福祉活動計画の2年目が終了しました。第3次までは、能美市の地域福祉計画を受ける形で1年遅れで同期させていましたが、第4次からは両計画の同時開始となりました。完全同期させることにより、能美市の地域福祉を推進する「車の両輪」として機能させることが強調されました。

車の両輪として能美市の福祉を推進していくことに関して、初年度の評価報告にもありますが、「これは、新しい取り組みであり、まだまだ磨き上げていかなければいけない」ことは、言うまでもありません。しかし、どう磨き上げるかについて、2年目での進展は見られませんでした。「ここに寄り添い合う人づくり委員会」、「見守り・助け合い推進委員会」、「くらし応援委員会」は、それぞれの課題に取り組んでいます。3委員会の委員長と副委員長から構成される「こころ豊かな地域づくりの会」で扱うべきかもしれませんが、余力という点では、全体に係わる新たな課題については評価委員会がそれを咀嚼し、「こころ豊かな地域づくりの会」で考えてもらうための材料として提示するような仕組みがあっても良いのかもしれない。

コロナ禍では人が集うこと、対面することが制約されましたが、徐々に制約が緩和され、過去のものとなりつつあります。制約下では、必然的にICT（情報通信技術）を利用することで通信を介した対話が考慮され、試みられました。人と人が会うことに制約が無くなりつつある今こそ、集うこと、対面すること、そしてつながることの意義を再認識し、ICT利用との適切な組み合わせを考える良い機会となるでしょう。

地域福祉を住民に広く知ってもらい、理解してもらうための「春まちぼかぼかプロジェクト」（以下、春ぼか）は、9日間で19のプログラムを実施しました。毎年参加してくれる人も多く、地域福祉活動の実体験を踏まえての話し合い等で、内容の濃いものになっています。その半面、関係者だけの集まりと狭く捉えられて、初めて参加しようとする人たちの敷居を高くしていないかどうかにも留意する必要があるでしょう。誰もが参加しやすい地域福祉の入門プログラムを、今一層、洗練させることが求められています。

次年度は第4次地域福祉活動計画の3年目です。中間評価報告を春ぼかで発表する節目の年となります。本年度は、初年度の評価の視点をそのまま引き継ぐことで、次年度につなげたいと考えます。

## ① 評価の視点

- ◇ 「『障がい』という言葉の意味についてしっかりと検討しておく必要があります」と、初年度の評価報告にあります。「障がいの定義」を求めているというよりは、「障がいとは何か」を深く考えることを求めたものだと解釈できます。結果として、「ひきこもり」にも視野が広がったことが評価されました。また、「活動の制限」や「社会参加への制約」による「生きにくさ」も、実は社会自体が持つ障がいとも言えるかもしれません。公助・共助の視点では、制度として機能させるために障がいの定義が必要になりますが、自助互助の視点からは障がいを知る・理解する・共感する精神がより大切となります。
- ◇ 地域福祉は地域における文化です。地域福祉活動はその文化土壌を耕していくことです。制度としての福祉を社会福祉とするなら、文化としての福祉が地域福祉だとも言えます。初年度の評価報告では、福祉文化の担い手となる「個人の成熟」が求められました。個人から、更に地域全体の成熟へと方向性も示されています。成熟とは文化の厚みであり、自発的な行動がその源泉であることも述べられています。自助互助という言葉は、それらを含意しています。
- ◇ 初年度の評価報告では、「地域福祉委員会」活動の充実を更に進めることが求められています。超高齢社会、自閉症や発達障害、生活困窮、近年多発している自然災害、諸制度の改革等、社会が抱える課題がありますが、住民が互いに見守り合い、助け合う地域福祉委員会は、地域の福祉課題を適切に捉え、諸機関と連携する等、課題を解決するための道筋を模索することが必要です。
- ◇ 「地域の特色を生かした住民主体の活動が盛り上がることを大切にしていかなければなりません」と、初年度の評価報告にあります。能美市には、ボランティア活動をしている多くの人たちがいます。ボランティアは地域福祉の精神を体現する人たちです。彼らの活動を支援する体制をこれからも継続、充実させる必要があります。

## ② 各委員会の報告

### ◆ここに寄り添い合う人づくり委員会

#### 自己評価（今後に向けて）

- ・ 地域ぐるみで、障がいに対する理解をすすめる活動として人づくり講座の開催を継続し、自分で学び考えるという機会をつくる。
- ・ 困っていたら「助けて」と言いやすい地域づくりを進める。
- ・ 既存のふれあいイベントに、各所属団体同士の連携を深めていく。
- ・ 福祉教育の更なる充実に向け、放課後児童クラブと放課後等デイサービスの交流は続けていく。
- ・ 日常と非日常（災害時等）が隣り合わせの中、普段から何かできるのかという視点を持ち活動する。

#### 相互評価

- ・ ヘルプマークの普及や理解の推進を図ることで、障がいの理解につなげる。

### ◆見守り・助け合い推進委員会

#### 自己評価（今後に向けて）

- ・ 各所属団体と連携し、地域における「つながり」の大切さの意識を高められるよう継続的に協議を深め、地域ぐるみの見守りや助け合い活動へとつなげていくためのきっかけづくりをすすめる。
- ・ 地域福祉委員会では、「つながるシート」を活用しながら、地域福祉委員会の開催につなげていく。
- ・ ICTを活用し、地域の見守り・助け合い活動の情報を広げていくための周知方法について、各所属団体で取り組めるような工夫につなげていくことをすすめる。

#### 相互評価

- ・ 地域福祉委員会の活動報告から、活動実績はコロナ禍前に戻ってきており、つながりや助け合い、見守りというところの大切さが感じられるのではないかと希望が持てる。
- ・ 春ぽかへの町(内)会長の参加が少なかった。要因として、町(内)会長の任期が1月から1年間となるので、2, 3月に見守りや福祉のことまで気持ちが向きにくいのではないかと感じる。また、町(内)会長は、市全体の活動よりも、地区単位での活動に重きがあるように感じ、市全体への視野やつながり弱いような気がする。
- ・ 各地区にこちらから出向いて福祉のことを伝える必要がある。

## ◆暮らし応援委員会

### 自己評価（今後に向けて）

- ・ 居場所の可視化(マップ化、冊子等)を行い、フードドライブ・パントリーの取り組みとあわせて、情報発信ツールの活用をすすめる。
- ・ 居場所を実際に身近な場所で作っていきたい方や、協力したい思いのある方がヒントを得られる機会をすすめる。また、支える、支えられる側に分かれるのではなく、それぞれが役割を持ち、つながることができるしくみづくりをすすめる。

### 相互評価

- ・ フードドライブ・フードパントリー等の活動の周知の課題について、各委員会の活動の中で、暮らし応援委員会の活動を伝えるなど、委員会同士で横につながり、課題を共有していくことで、周知も広がるのではないかと。

## ◆評価委員会（今後に向けて）

- ・ 3つの委員会の横のつながりを深めるために、お互いの委員会活動を知ることが必要である。各委員会の課題を共有し連携できるように、協力し支援していく。
- ・ 支援する側の視点だけではなく、支援される側がどう感じたか、理解できたか、何を持ち帰れたかという視点も大切にすることが、「助けたり、助けられたりの地域づくり」につながる。
- ・ 若い世代の参加を促すアプローチ方法について検討していく。
- ・ 能美市地域福祉計画と能美市地域福祉活動計画が車の両輪として機能するためには、どのような役割分担が必要なのか検討していく。
- ・ 住民の心意気（文化的側面、精神的側面）、ボトムアップ、ボランティアアクションを大切に推進していく。

### ③ まとめ

第4次では、「車の両輪」として地域福祉計画と地域福祉活動計画がどのように役割分担していくかの模索が課題となります。片や行政の計画、片や民間の計画という見方があります。公助・共助と自助互助という見方もあります。公助・共助は福祉の制度面を捉え、トップダウンの方向性を表しています。対して、自助互助は福祉の精神面を捉え、ボトムアップを表しています。案外、こういった両面性を認識しながら、互いを補い合うことで、地域の福祉を実現させていくことになるのかもしれませんが。

コロナ禍を経ることでICT（情報通信技術）がより身近なものとなりました。最近では、スマホのような携帯端末も一般化し、AI（人工知能）技術と組み合わせることで、身体能力の欠損や衰えを補うことも可能になってきました。また、人の生活をAIに見守らせることも可能になってきました。地域福祉の観点から、これらを適性的確に活用するための考え方を準備する段階に来たように思えます。

毎年「春ぽか」を開催し、春ぽかの最終プログラムとなる「地域福祉のつどい」をしてきました。実に16年の道のりです。コロナ禍で急遽中止した年もありました。本年度は、能登半島地震で開催をどうするかを議論しました。結果は、「ふだんのくらしが困難なときこそ、つながりあおう！」とスローガンを改め、開催しました。また、オープニングでは、地域福祉活動計画の過去の流れを説明しています。ようやく、過去を顧みるところまで来た感がします。

第4次の2年目を無事に終えることができたこと、多くの方々の協力の賜物です。ここに深く感謝申し上げます。

### ④ 報告と公表

本報告書は、第83回理事会【6月12日（水）】及び、第76回評議員会【6月27日（木）】において、理事・監事・評議員に報告するほか、本会ホームページにおいて公表します。

## 2. 3 委員会の評価シート・経過シート

推進する委員会	令和5年度 ころに寄り添い合う人づくり委員会 評価シート						
	指標項目	指標数値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
第4次計画の指標	・地域における「ふれあい行事」の開催数(単年度数)	330回	204回	125回			
	・障がいのある方(その親等)の仲間作りと社会参加を目的とする交流の機会の開催数(単年度数)	35回	39回	39回			
	・子育て支援に関する集いの場の実施回数(単年度数)	250回	268回	283回			
	・地域における福祉体験・共生理解の体験者の延べ人数(単年度数)	5,500人	3,525人	5,288人			
第4次計画でめざすこと	<p>①私たちが暮らす地域の多様な人々に対して、地域ぐるみで共生意識の理解を深めます。</p> <p>②福祉のころを育むために教育関係者や団体が連携し、共生意識を高め、考える場や機会をつくります。</p> <p>③多様な人々の思いや願いを共有できる場や機会をつくります。</p> <p>④孤立しない子育て支援について地域ぐるみで考える場や、機会をつくります。</p> <p>⑤研修や啓発の機会にICTを活用し、情報発信をすすめます。</p>						
昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある方もない方も共に地域で暮らしていくという意識を広めるためには、理解啓発の機会がまだまだ必要。</li> <li>・地域で誰もがその人らしく暮らしていくためには、『ころに寄り添い合う人づくり講座』などの考え合う機会の継続が必要。</li> <li>・福祉教育では、幼少期から障害に対する正しい知識を得て、理解を深めることが必要。</li> </ul>						
どのように進めてきたか(2年目)	<p>◆障がいについての理解をすすめるために、障がいのある人とない人の交流の場をつくった。多様性を学ぶ場や、インクルーシブ(ごちゃまぜ)な交流の場をつくった。</p> <p>◆『ころに寄り添い合う人づくり講座』を開催し、障がい者問題は障がい者だけの問題ではなく、むしろ障がいのない人の問題であることを知ってもらえるよう取り組みをすすめた。障がいのある人の社会参加について考え、合理的配慮について理解を深める場を設けた。そして、自分自身の障がい者に対する意識を問うとともに、何かできることはないか話し合う機会を持てるようすすめた。</p> <p>～具体的な取り組み～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で活動する市民生委員児童委員協議会との合同研修を開催した。</li> <li>・みんなの街フェスに参画し、バラスポーツを体験しながら交流できる場を設けた。</li> <li>・児童館へ出向き、放課後児童クラブの児童への啓発活動を行った。</li> <li>・放課後児童クラブと放課後等デイサービスに通う児童との交流の場をつくった。昨年と違う部分は、放課後等デイサービス側からの意見も取り入れ、障がいがあっても参加しやすいように工夫した他、放課後等デイサービスのスタッフにも目的意識を共有し、進行を依頼するなど連携強化を図った。</li> <li>・春まちほかほかプロジェクトにて、『ころに寄り添い合う人づくり講座』を開催し、障がいのある当事者の声を聴き、自分にできることを自身に問う機会とした。</li> </ul>						
取り組みの中で見えた課題(2年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が50代～70代に偏る傾向が見られるため、若い世代や子育て世代の市民が幅広く参加できるような工夫が必要。</li> <li>・研修や啓発活動の機会にICTを活用し、多元的に情報発信することが必要。</li> <li>・教育関係者・福祉団体・それぞれの組織の連携を強化して、共にすすめて行く意識付けが必要。</li> <li>・福祉教育では、幼少期から障がいに対する正しい知識を得て、出会うふれあいを通して理解を深めることが継続的に必要。</li> </ul>						
今後に向けてどう進めるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も地域ぐるみで、障がいに対する理解をすすめる活動として人づくり講座の開催を継続し、自分で学び考えるという機会をつくる。</li> <li>・困っていたら「助けて」と言いやすい地域づくりを進めていきたい。</li> <li>・「理想」は「理想」だが、当委員会として掲げ追い求めていくべき。</li> <li>・既存のふれあいイベントに、各所属団体同士の連携を深め色々な人を巻き込んでいきたい。</li> <li>・福祉教育の更なる充実に向け、放課後児童クラブと放課後等デイサービスの交流は続けていく。</li> <li>・日常と非日常(災害時等)が隣り合わせの中、普段から何ができるのかという視点を持ち活動する。</li> </ul>						



第4次計画を推進する委員会		令和5年度 ころに寄り添い合う人づくり委員会 経過シート	
★第4次計画でめざすこと		① 私たちが暮らす地域の多様な人々に対して、地域ぐるみで共生意識の理解を深めます。 ② 福祉のころを育むために教育関係者や団体が連携し、共生意識を高め、考える場や機会をつくります。 ③ 多様な人々の思いや願いを共有できる場や機会をつくります。 ④ 孤立しない子育て支援について地域ぐるみで考える場や、機会をつくります。 ⑤ 研修や啓発活動の機会にICTを活用し、情報発信をすすめます。	
★委員会とSDGs		多様な人々の存在や共生についての理解が深まり、互いを理解し、認め合い居心地よい地域づくりが根付くようにすすめます。 	
実践活動内容 (どんな事を話し合い、行ったか)	第1回会合 (6/16)	1) 経過説明 ・第4次活動計画1年目として評価シート等にて進捗状況を確認後、概要版をもとに、本委員会のめざす事、大切なポイント等について共有した。 2) 委員紹介、自己紹介 3) 委員長・副委員長の選出 津田委員長・小西副委員長・外山副委員長 4) 今年度の協議の方向性及び年間開催予定(頻度)について検討 ・毎月1回委員会を開催。 ・昨年度に引き続き今年も、障がいについて考える理解・啓発の機会づくりとして、気持ちに寄り添った関わり方を学ぶ「人づくり講座」を開催する。また、所属団体の連携を強化しながら放課後児童クラブと放課後等デイサービスの交流活動も継続していく。	
	第2回会合 (7/20)	1) 「ころに寄り添い合う人づくり講座」の活動内容・日程について検討 ・8月24日(木)夏休み学習支援にて啓発活動を実施予定(多様性に関する絵本の読み聞かせ)…(くらし応援委員会の活動と同日) ・夏休み・冬休みにおける放課後デイサービスと放課後児童クラブの児童との交流について検討…自立支援協議会との協働企画 ・「みんなの街フェス」への参加・協力について内容を検討 2) 委員会活動の方向性について再確認し、地域福祉委員会等に対する取り組みについて協議した。 ⇒ 次回の委員会で、地域福祉委員会等へ出向くための講座内容について委員同士で学習を深める。	
	第3回会合 (8/17)	・委員会の活動に、みまもりあいアプリを活用していく。⇒トークグループを作成。 1) ころに寄り添い合う人づくり講座の内容を確認 (津田委員長のパワポを確認し、伝えたい内容を委員間で共有した。) 2) グループワークを行った。(グループA) 委員会の取り組みを団体に広げるため、民生委員児童委員協議会との合同研修を企画(グループB) 子ども時代からインクルーシブな福祉教育を行うことの大切さから、ジュニアボランティアクラブでの活動を企画 ●活動● (8/24) 夏休みの学習支援I・RO・DO・RIひろばにてトランスジェンダーに関する絵本読み聞かせを実施	
	第4回会合 (9/28)	1) ころに寄り添い合う人づくり講座の確認 ・民生委員児童委員協議会(障がい者福祉部会)との合同研修の講師と内容確認 ・ジュニアボランティアクラブの内容について確認 ・読み聞かせでの児童館訪問について、分担決め・絵本決め 2) あったかまつり(社会福祉法人泰耀)への協力・分担決め	
	第5回会合 (10/27)	1) 民生委員児童委員協議会との合同研修会 『教育の世界から福祉の世界へ～人権を真ん中にすえて～』 講師：障がい者地域生活支援センターあんとふる 理事長 松田 昇 氏 2) 活動の報告・児童館訪問の分担確認 ●活動● (10/21) あったかまつり(社会福祉法人泰耀)でボランティア、(10/25) 辰口中央児童館/絵本読み聞かせ	
	第6回会合 (11/16)	1) 先月の活動の振り返り 2) 春 まち ぼかぼか プロジェクト ころに寄り添い合う人づくり委員会の報告会のテーマ・内容協議 3) 児童館訪問の流れ・分担確認 ●活動● (11/8) 根上北部児童センター/絵本読み聞かせ、(11/21) 粟生児童館/絵本読み聞かせ、(11/28) 湯野児童館/絵本読み聞かせ	
	第7回会合 (12/21)	1) 先月の活動の振り返り 2) 春 まち ぼかぼか プロジェクト ころに寄り添い合う人づくり委員会の報告会の内容確認・分担決め 3) 児童館訪問の流れ・分担確認 ●活動● (12/16) みんなの街フェス「障害者スポーツ体験コーナー(ポッチャ)」 (12/26) 国造児童館/絵本読み聞かせ・キッズMOMOポッチャ交流、(12/27) 宮竹児童館/絵本読み聞かせ・おはなハウスポッチャ交流	
	第8回会合 (1/18)	1) 先月の活動の振り返り 2) 春 まち ぼかぼか プロジェクト ころに寄り添い合う人づくり委員会の報告会の内容確認・分担確認 神田委員が報告する部分の確認を行った。 3) 児童館訪問の流れ・分担確認 (自立支援協議会の子ども連絡会より、追加で交流活動を行ってほしいと依頼があった。)	
	第9回会合 (2/15)	1) 先月の活動の振り返り 2) 春 まち ぼかぼか プロジェクト ころに寄り添い合う人づくり委員会の報告会の内容確認・分担確認 津田委員長の講座部分の確認を行った。当日の準備物や、流れの確認を行った。 3) 児童館訪問の流れ・分担確認 (調整結果、根上地区：根上北部児童センターで「ぶっちいさらだ」と交流、寺井地区：湯野児童館で「あとむ」と交流が決定した。)	
	春P (2/24)	春 まち ぼかぼか プロジェクト ころに寄り添い合う人づくり委員会の報告会 「”であい・ふれあい・つながりあい”～知ること、そして行動へ！～」 ①開会挨拶・主旨説明 ②人づくり講座(津田委員長) ③報告(神田委員) ④個人ワーク「私たちができること」 ⑤まとめ ⑥閉会	
第10回会合 (3/6)	1) 1年を通した活動の振り返り及び、春Pでの報告について振り返り 2) 次年度につないでいきたいことと、振り返ってみて新たに取り組みたいことなどを協議した。 3) 児童館訪問の流れ・分担確認 ●活動● (3/25予定) 根上北部児童センター/「ぶっちいさらだ」とポッチャ交流、(3/26予定) 湯野児童館/「あとむ」とポッチャ交流		

推進する委員会		令和5年度 見守り・助け合い推進委員会 評価シート					
第4次計画の指標	指標項目	指標数値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	・地域福祉委員会の実施回数（単年度数）	950回	494回	504回			
	・いきいきサソ・地域カフェ、公民館開放等の実施回数（単年度数）	2,000回	1,430回	1,707回			
	・地域福祉委員会ヒント探し講座【入門編】修了者数（地域福祉委員会活動推進員登録者数）	520人	410人	427名			
	・地域福祉委員会と連携をとる地域内の「生活支援の助け合いグループ」把握団体数（累計数）	25団体	18団体	19団体			
	・ボランティア登録人数（単年度数）	4,700人	3,049人	3,025人			
	・ボランティア登録団体数（単年度数）	96団体	83団体	87団体			
第4次計画でめざすこと	<p>① 私たちが暮らす地域をよくするために、地域を基盤とする「地域福祉委員会」活動の充実をすすめる。</p> <p>② 各町の取り組みや、助け合い活動グループの事例を学び、情報共有をすすめる。</p> <p>③ ICT活用した情報共有や、地域活動の情報発信をすすめる。</p> <p>④ 福祉施設・企業・商店との連携をすすめる。</p> <p>⑤ 地域における助け合いの担い手や理解者の拡充をすすめる。</p>						
昨年度の課題	<p>所属する委員からの「これまで地域福祉委員会に参加する機会がなかった」という声や、「初めて委員会の報告の機会（春まちP）を知った」等の声を受け、町（内）会が組織団体等を巻き込みながら、一人ひとりができる見守り・助け合い活動について、町（内）会全体で考えていけるよう継続的に意識づけが必要。また見守り活動に関する情報を共有することや、情報発信のしくみの一つとして、ICTを活用しつなげる工夫が必要。</p>						
どのように進めてきたか（2年目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICTを活用したつながりの工夫の中で、「みまもりあいアプリ」について全委員で確認し合い、委員同士でアプリを取得し、活用につなげた。</li> <li>・ 各委員会より所属団体としての地域課題や悩み、また願い等共有したいことの意味を洗い出し、委員会としての方向性を確認した。また、活動計画のめざす内容について、各所属団体として取り組んでいることや、今後取り組みそうなこと等を確認し合い、団体としての活動計画での位置づけを確認した。</li> <li>・ 「自助互助」の意識を高めて広げていく為に、地域福祉委員会にて自分たちの地域の課題について話し合い確認することを目的とした『つながるシート』を委員会で作成した。また今後、地域福祉委員会にて活用いただけるよう促していくことを確認した。 ※シート名：～「気がかり」から「助け合い」へ～ 『つながるシート』</li> <li>・ 近年コロナ禍や災害が発生した今だからこそ、ふだんの地域のつながりを改めて見直す機会として、“つなぎ直し・結び直し”を考え、確認し合うことの大切さについて、地域へ発信する機会につなげた。</li> </ul>						
取り組みの中で見えた課題（2年目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域福祉委員会の委員長を担う町（内）会長に、地域を基盤とする「地域福祉委員会」の取り組みの必要性の理解を深めていただくために、各所属団体も巻き込みながら繰り返し意識づけ（周知も含む）を行うことが必要。</li> <li>・ 地域を取り巻く多様な課題に対して、地域住民と企業や商店等が連携し合える見守り活動のネットワークの充実をすすめていくことが必要。</li> <li>・ 見守り活動に関する情報を共有することや、情報発信のしくみの一つとして、ICTを活用しつなげる工夫が必要。</li> </ul>						
今後に向けてどう進めるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各所属団体と連携し、地域における「つながり」の大切さの意識を高められるよう継続的に協議を深め、地域ぐるみの見守りや助け合い活動へとつなげていくためのきっかけづくりをすすめる。</li> <li>・ 地域福祉委員会では、「つながるシート」も活用しながら、地域福祉委員会の開催につなげていく。</li> <li>・ ICTを活用し、地域の見守り・助け合い活動の情報を広げていくための周知方法についても、各所属団体で取り組めるような工夫につなげていくことをすすめる。</li> </ul>						

第4次計画を推進する委員会	令和5年度 見守り・助け合い推進委員会 経過シート	
★第4次計画でめざすこと	① 私たちが暮らす地域をよくするために、地域を基盤とする「地域福祉委員会」活動の充実をすすめます。 ② 各町の取り組みや、助け合い活動グループの事例を学び、情報共有をすすめます。 ③ ICT活用した情報共有や、地域活動の情報発信をすすめます。 ④ 福祉施設・企業・商店との連携をすすめます。 ⑤ 地域における助け合いの担い手や理解者の拡充をすすめます。	
★委員会とSDGs	地域住民が、互いに見守り助け合うという活動が地域に根付き、よりよく暮らせるように取り組んでいきます。	
実践活動内容（どんな話を話し合い、行ったか）	第1回会合 (6/16)	1)経過説明 ・第4次活動計画1年目として評価シート等にて進捗状況を確認後、概要版をもとに、本委員会のめざす事、大切なポイント等について共有した。 2)委員紹介、自己紹介 3)委員長・副委員長の選出 藤田委員長・辰巳副委員長・吉田副委員長 4)今年度の協議の方向性及び年間開催予定(頻度)について検討 ・毎月1回委員会を開催
	第2回会合 (7/25)	1)地域福祉委員会について活動のてびきをもとに概要説明し、併せて『見守りポイントリスト』にて見守りの必要性についての認識を深めた。 2)今年度の委員会の取り組み内容について、まず各委員より所属団体として、また町(内)会の中での気になることや、悩んでいること等意見の洗い出しを行った。 今後さらに地域における「つながり」の大切さへの意識を高められるよう、継続的に協議を重ねていくことを確認した。 また、ICTの活用を広めていくために、みまもりあいアプリについて全委員で確認し、アプリの取得につながった。今後、開催案内はアプリを活用していくことで確認した。
	第3回会合 (8/22)	1)意見交換 前回に引き続き、各委員より地域の抱える課題や状況報告をいただき共有した。今後、委員会としてどのような見守りのしくみづくりができるかについて検討していくことを確認した。
	第4回会合 (9/26)	1)見守り・助け合いのしくみづくりについて 見守り・助け合いのしくみづくりについて、これまでの会合から出た意見をもとにグループワークで意見を出し合った。 自助互助の意識を高め広げていく為に、地域福祉委員会にて課題を確認する話し合いシートを委員会にて作成することで意見がまとまり、シート名及び内容について協議を深めた。 2)その他、意見交換
	第5回会合 (10/24)	1)見守り・助け合いのしくみづくりについて 前回協議したシートの内容について再度確認した。シート名を、～「気がかり」から「助け合い」へ～『つながるシート』に決定。今後、各委員の地域福祉委員会にて、『つながるシート』の実践につなげていくことを確認した。 2)春 まち ぼかぼか プロジェクト報告会の日程について確認し、次回以降、報告会の内容を検討していく。
	第6回会合 (11/29)	1)春まち ぼかぼか プロジェクト(委員会の報告)の内容について継続協議 テーマ:『声かけからはじめよう 地域の“わ”～あなたにとっての一言はなんですか～』に決定した。 ・内容については、①福岡町で開催している地域カフェをきっかけに、声かけからつながった地域の助け合い活動の事例報告。 ②地域の担い手の一つである企業や商店も含めて、地域ぐるみで地域の見守り活動を行う視点を発信することで、参加者や各団体として何が出来るかについて考えてもらう機会につなげることで方向性が決まった。 2)意見交換
	第7回会合 (12/19)	1)春まち ぼかぼか プロジェクト(委員会の報告)の内容について継続協議 ・役割分担について確認 ・内容は、①福岡町活動事例報告、②郵便局(企業)の見守り活動報告、③グループワークとし、グループワークのねらいとしては、コロナ禍が明け、改めて地域の「つながり」を見直す機会につなげる内容で行うことに決まった。 2)意見交換
	第8回会合 (1/23)	1)春まち ぼかぼか プロジェクト(委員会の報告)の内容について最終確認 ・グループワーク用のシート内容について協議した。 また、最後に自分自身にとっての「ひと言」についても考えていただくことをおさえた。 2)意見交換
	春P (2/25)	1)春 まち ぼかぼか プロジェクト 見守り・助け合い推進委員会の報告会 ①福岡町活動事例報告、②郵便局(企業)より見守り活動の報告・意見交換(グループワーク)・発表・まとめ ※地域福祉セミナー、地域福祉委員会活動推進員研修会を同時開催
第9回会合 (3/7)	1)春 まち ぼかぼか プロジェクト(プログラム7) 、一年間の取り組みの振り返り	

推進する委員会	令和5年度 暮らし応援委員会 評価シート						
第4次計画の指標	指標項目	指標数値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	・市内で実施されたフードドライブの回数（単年度数）	34回	27回	20回			
	・フードドライブでつながった生活支援のネットワーク団体数（単年度数）	54団体	30団体	27団体			
	・フードドライブの配付件数（単年度数）	430件	299件	417件			
第4次計画でめざすこと	<p>①私たちが暮らす地域に相談できる場や機会をつくります。          ②多様な主体がそれぞれの強みを活かした助け合い活動につなげる話し合いの場をつくり、ネットワークづくりをすすめます。          ③情報発信や情報入手についてICTを活用し、環境を整えます。          ④地域における助け合い活動の意識啓発をすすめます。          ⑤誰もが地域で活躍する場が広がるようすすめます。</p>						
昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードドライブ活動を通して地域で困っている人、支援を必要としている人がいることを知っていただいたことで、企業・団体・町会などが主体となりフードドライブの取り組みが行われ、助け合いのしくみであることの理解が広がったことから、支援を必要としている人へタイムリーにつながるための工夫が必要。</li> <li>・フードドライブは、生活に困った人への支援につながるよいしくみではあるが、つながるためにも顔を合わせて話をする場がないとその人との関係性につくれない。そのためにも人と関わる場づくりをすすめることが必要。</li> </ul>						
どのように進めてきたか (2年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会にて、地域の現状を確認し合い、地域で暮らす誰もがつながり助け合うしくみづくりに向けて話し合いを進めた。</li> <li>・つながるための一つの方法として、フードドライブの取り組みを年3回行なった。</li> <li>・助け合いの支援につなげるためにもフードドライブ・パントリーの周知方法を皆で考えた。 ⇒手帳や財布などに入る大きさのカードのデザインを検討中。また、情報発信ツールの活用も同時進行。</li> <li>・市内に様々な理由で孤立する人がいることがわかり、誰もが安心していける居場所を通じて、つながりづくりをすすめた。 ⇒暮らし応援委員会のつながりの合言葉は「サードプレイス」</li> <li>・多様な居場所を知ること、それぞれの居場所づくりについての情報交換の機会を提供した。</li> </ul>						
取り組みの中で見た課題 (2年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードドライブの取り組みを定期的に続けてきたことで、様々な団体等が実施し認知されてきた。しかし、助け合い支え合いの取り組みであることの理解には達していないように感じられることから今後もフードドライブを継続し、更に助け合いにつながるしくみであることを伝え続けることが必要。</li> <li>・今年度、「必要とされている居場所は何か」を考え、また「既にどのような居場所」があるのか、話し合いを進めてきたことでつながるための人と関わる居場所づくりに一歩進むことができた。しかし、現状では様々な居場所が存在していることが知られていないことやつながりが弱いことから、更なる情報発信やネットワークづくりが必要。</li> </ul>						
今後に向けてどう進めるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所の可視化（マップ化、冊子等）を行い、フードドライブ・パントリーの取り組みとあわせて、情報発信ツールの活用をすすめる。</li> <li>・居場所を実際に身近な場所で作っていきたい方や、協力したい思いのある方がヒントを得られる機会をすすめる。また、支える、支えられる側に分かれるのではなく、それぞれが役割を持ちつなげることができるしくみづくりをすすめる。</li> </ul>						

第4次計画を推進する委員会		令和5年度 暮らし応援委員会 経過シート
★第4次計画でめざすこと		① 私たちが暮らす地域に相談できる場や機会をつくります。 ② 多様な主体が、それぞれの強みを活かした助け合い活動につなげる話し合いの場をつくり、ネットワークづくりをすすめます。 ③ 情報発信や情報入手についてICTを活用し、環境を整えます。 ④ 地域における助け合い活動の意識啓発をすすめます。 ⑤ 誰もが地域で活躍する場が広がるようすすめます。
★委員会とSDGs		生活に不安を抱える人々が、人や地域とつながり、互いが助け合うしくみが、この地域に根付くようすすめます。 
実践活動内容 (どんな話を話し合い、行ったか)	第1回 会合 (6/16)	1) 経過説明 ・第4次活動計画1年目として評価シート等にて進捗状況を報告。本委員会のめざすことなどを確認し合った。 2) 委員紹介、自己紹介 3) 委員長・副委員長の選出 近藤委員長・谷田副委員長・立花副委員長 4) 今年度の協議の方向性及び年間開催予定(頻度)について検討 ・昨年度の取り組みのフードドライブについての意見交換 ・毎月1回委員会を開催。
	第2回 会合 (7/25)	1) フードドライブの取り組みについて協議 ・日時: 9月23日(土)10時~12時 会場: 根上総合文化会館 (能美市民ボラフェスに併せて開催) 10月14日(土) 9時~12時 会場: ふれあいサイクルセンター(市生活環境課とのコラボ) 2) 意見交換 ・地域の現状や課題を話し合った。 ・各団体が企画居場所づくりを実施(サードプレイス) ⇒ 8月24日(木) 暮らし応援委員会の委員の参加を呼びかけた。 3) つながるしくみづくりについて ・昨年度からの取り組みとして、みまもりあいアプリの活用をすすめていく ⇒ まずは、委員でつながった。
	第3回 会合 (8/28)	1) フードドライブの取り組みについて ・役割分担: 受付や仕分けボランティア協力 (「個人ボラ、市国際交流協会、のみワークホートりんく」への声掛け) ・集められた食品を支援を必要としている人に配付するしくみについて考える(みまもりあいアプリの活用、フードパントリー、居場所づくり) 2) 意見交換
	第4回 会合 (9/25)	1) フードドライブ実施について ・9/23(土)ボラフェス会場(根上総合文化会館)にて実施。取り組みの振り返り ・助け合いから支援につなげるためにもフードドライブ・パントリーの周知方法を話しあった。⇒手帳や財布に入る大きさ(名刺サイズ)のものを作成する案があり、みんなでデザインを検討することとした。 2) 意見交換 ・つながるための居場所があるとよとの意見から、暮らし応援委員会の報告会にて「ひろば」のような場づくりを進めることを話しあった。
	第5回 会合 (10/23)	1) フードドライブの実績報告。(9/23:54件、10/14:30件) フードドライブの取り組み 日時: 12月2日(土)・3日(日)10時~12時 会場: 寺井地区公民館 (歳末助け合い入札展の会場にて開催) 2) 春 まち ぽかぽか プロジェクト 暮らし応援委員会の報告会 日程、内容の検討
	第6回 会合 (11/27)	1) フードドライブ実施について ・12/2.3の当日の協力者の確認。 2) いろんな居場所について意見交換 ・子ども、高齢者、外国の方、障がいなどそれぞれの現状報告 3) 春 まち ぽかぽか プロジェクト 暮らし応援委員会の報告会 内容協議 ・今ある居場所の事例紹介
	第7回 会合 (12/18)	1) フードドライブの実績報告。(12/2・3:62件) ・フードドライブ協力: 暮らし応援委員会委員、市国際交流協会よりベトナムの方々、市母子会会員親子、市ボランティア連絡協議会役員、個人ボラ 2) 春 まち ぽかぽか プロジェクト 暮らし応援委員会の報告会 内容確認 ・役割分担、情報交換等の内容検討。
	第8回 会合 (1/22)	1) フードドライブで集められたつながるしくみであるフードパントリーについての意見交換 2) 春 まち ぽかぽか プロジェクト 暮らし応援委員会の報告会 内容確認及び意見交換
	第9回 会合 (2/19)	1) 春 まち ぽかぽか プロジェクトでの委員会報告の内容について最終確認。
	春P (3/2)	* 春 まち ぽかぽか プロジェクト 暮らし応援委員会の報告会 “居場所いい場所!!” 実施 ・フードドライブでつながった事例紹介 ・シングルファミリー、外国の方、障がいのある方、地域のいろいろなサロン、子ども食堂などの「居場所いい場所」の紹介 ・“情報・意見”交換「いろいろな居場所を知ってみんなでつながろう!」 参加: 64名 フードドライブの実施: 3月3日(日)10:00~15:00 寺井地区公民館
第10回 会合 (3/11)	1) 春 まち ぽかぽか プロジェクト(プログラム16)、1年間の取り組みの振り返り	

3. 第4次能美市地域福祉活動計画の指標 [令和5年度 2年目]

◆ こころに寄り添い合う人づくり委員会

指標項目	第3次 最終 (R3実績)	目標値	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	算出根拠
地域における「ふれあい行事」の開催 (回) ※「ふれあい行事」は地域の既存の行事に福祉の視点を取り入れて行うもので地域福祉委員会の実績報告で把握します。	252	330	204	125				【目標値】H26からの4年間で85回増。 平均予約9回、今後5年間で9×5=45回増 と考え、251+45=296→300
・ポラフェス・ふれあい福祉交流会等の実施回数 (回)			1	1				
・こころに寄り添い合う人づくり講座回数 (回)			10	13				
・地域福祉委員会におけるふれあい行事の実施回数 (回)			193	111				
障がいのある方(その親等)の仲間作りと社会参加を目的とする交流の機会の開催数(単年度数) (回)	32	35	39	39				【目標値】障がいを持つ子の母親グループ「きつとも」と「が解散したことが、別のつどいの可能性を探ることとし現状維持とする。 ※1(R5内訳)ゆるにこまるにこ(23回)・ふれあい福祉運動会(0回)、障がい者週間等の実施数(1回)
・ぬくもりサロンの実施回数 (回)			4	4				
・福耳ネットの実施回数 (回)			11	11				
・ゆるにこまる・ふれあい福祉運動会・障がい者週間等の実施数 (回)※1			24	24				
子育て支援に関する集いの場の実施回数(単年度数) (回)	191	250	268	283				【目標値】親子サロン、絵本カフェの地域を会場に広めていくとして微増。 ※2(R5内訳)のみん広場(1回)、子育てネット(3回)、ジーヘルズ(2回)、irodori(50回)、三道山子(27回)、オアシスつるしん(47回)、下ノ江子(5回)、不登校(12回)
・親子サロンと絵本カフェの実施回数 (回)			133	136				
・のみん広場、子育てネット、子ども食堂、その他集い実施回数 (回)※2			135	147				
地域における福祉体験・共生理解の体験者の延べ人数 (人)	3,365	5,500	3,525	5,288				【目標値】現状維持
・学校での福祉体験の体験者の延べ人数 (人)			3,237	4,818				
・ジュニボラ施設体験者述べ人数 (人)			84	62				※3街フェス(91)、児童館(234)、春ばかでの人づくり講座(83)
・放課後児童クラブや地域での共生理解の体験者延べ人数 (人) ※3			204	408				

◆見守り・助け合い推進委員会

指標項目	第3次 最終 (R3実績)	目標値	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	算出根拠
各町地域福祉委員会の実施回数(単年度数) (回)	493	950	494	504				【目標値】H29実績79地域福祉委員会平均9.08回開催。これを年12回開催にする→948回→950回
地域のいきいきサロン・地域カフェ・公民館開放等の合計実施回数(単年度数) (回)	1,033	2,000	1,430	1,707				【目標値】H29実績79地域福祉委員会は平均15.4回実施を年20回(月2回弱)開催に(1580)
地域福祉委員会ヒント探し講座【入門編】修了者数(活動推進員登録者数)(累計数) (人)	381	520	410	427				【目標値】10年間平均27人。今後5年間×で25人=125人増と考え、271+125=396→400
地域福祉委員会と連携をとる地域内の「生活支援の助け合いグループ」把握団体数(累計数) (団体数)	16	25	18	19				【目標値】5年間で6団体増。今後5年間で7+5=12 ①認定NPO法人えんがわ、②赤信町支えあい隊、 ③石子町お世話さん、④丸谷町見守り隊、⑤西二 口町ほほえみネット、⑥松が岡クラブ、⑦東レ08 支援隊、⑧能美子ども食堂ネットワーク、⑨三道 山子ども食堂、⑩みんなな食堂、⑪NPO法人たすけ 隊、⑫市商工会女性まちづくり研究会、⑬粟生リ ンクの和、⑭オアシスつるしん、⑮下ノ江ささえ あい隊(下ノ江こども食堂)、⑯下開発つながり の会、⑰I・R0・D0・RIひろば、⑱道林町支えあい 隊、⑳赤井町高齢者お助け隊
団体名	①～⑱		⑰、⑱	⑱				
ボランティア登録数(単年度数) (人)	3,359	4,700	3,049	3,025				【目標値】 市人口5万人の1割を目指す。 (H30.3.1現在50,132人)
ボランティア登録団体数(単年度数) (団体数)	91	96	83	87				【目標値】 10年で14団体増。今後5年間で1/2と考 え94+7=101→100

◆くらし応援委員会 (R3年度から開始)

指標項目	第3次 最終 (R3実績)	目標値	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	算出根拠
フードドライブ実施回数 市内実施(単年度数) (回)	17	34	27	25				社協開催だけでなく、市内企業や団体での取り組みも含む 泉台町会2、北電(株)小松支店1、日本ガイシ(株)1、NGKセラミックデバイス(株)1、のみ 社福連1、大成町内会1、辰口校下女性会1、前田製菓(株)1、アルビス辰口店1、カーブス能美寺井1、のみ商業協同組合3、根上中1、宮竹小1、社協3、寺井生産組合1、市生活環境課1、ファミリーマート大成町1、マルエー寺井店1、マルエー根上店1、JA能美生産者1
フードドライブでつながった生活支援のネットワーク団体数(単年度数) (団体数)	29	54	30	27				協議団体12 (くらし応援委員会委員団体10、協力団体3 (JA生産団体、りんく、寺井高JRC)) フードドライブ実施企業・団体・学校14
フードドライブで寄付を受けた食料の配付件数(単年度数) (件)	217	430	299	417				くらしサポートセンターを通じて配付した件数を計上

◆春まちぽかぽかプロジェクト参加者数 (人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
参加人数	927	1,243	1,370	1,261	1,721	1,473	1,828	0	185	871	1,451	1,734

◆社会福祉協議会の会員数 (単年度数)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
個人会員	4,692	4,581	4,361	4,224	4,419	4,344	4,763	4,763	4,234	4,103	4,122
団体・企業含む	5,050	4,926	4,708	4,557	4,748	4,674	5,092	4,664	4,503	4,386	4,404



4. 第4次能美市地域福祉活動計画の2年目の推進体制

	令和5年					令和6年						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会福祉協議会 理事会 評議員会			理事会 6/6	理事会 6/20				理事会 11/28	評社協 議員会 12/6		理事会 2/27	評社協 議員会 3/5
			評社協 議員会 6/20									評社協 議員会 3/26
評価委員会					No.1 評 8/2					No.2 評 1/9		No.3 評 4/2
				委員委員と 委員長・副委員長 の選任								
こころ豊かな 地域づくりの会					No.1 評 8/2					No.3 評 1/9		No.4 評 3/18
				理事委員と 会長・副委 長の選任								
こころに寄り 添い合う 人づくり委員会			No.1 6/16	No.2 7/20	No.3 8/17	No.4 9/28	No.5 10/27	No.6 11/16	No.7 12/21	No.8 1/18	No.9 2/15	No.10 3/6
見守り・助け合い 推進委員会			No.1 6/16	No.2 7/25	No.3 8/22	No.4 9/26	No.5 10/24	No.6 11/29	No.7 12/19	No.8 1/23	No.9 2/25	No.10 3/7
くらし応援委員会			No.1 6/16	No.2 7/25	No.3 8/28	No.4 9/25	No.5 10/23	No.6 11/27	No.7 12/18	No.8 1/22	No.9 2/19	No.10 3/2
												No.11 3/11
推進組織	令和5年10月21日 第19回能美市社会福祉大会											
	令和6年2月3日 令和5年度春まなぼかぼかプロジェクト各委員会の報告会と、最終地域福祉のつどいにて、第4次活動計画の2年目の推進報告											

6月

## 5. 能美市地域福祉活動計画評価委員会に関わって

評価委委員会アドバイザー 井岡 仁志

### 1) 能美市地域福祉活動計画の推進体制について

地域福祉の主体は、当事者を含むそこで暮らす住民（生活者主体）であると言われていています。能美市地域福祉活動計画（以下、活動計画と略）の素晴らしい点は、その主体である住民が、話し合いをずっと続けていることです。

計画の柱ごとに3つの委員会が組織化され、住民、関係者が参加してほぼ毎月話し合いを行っています。そして3委員会の協議を総括する、こころ豊かな地域づくりの会があり、それと対になる形で、評価委員会が活動計画の成果と課題を協議して、3委員会に還元され、且つ社協の理事会、評議員会、および行政にも提言がなされると理解しています。このような体制を構築している各委員の皆様と、その事務局機能を果たしている能美市社協のご尽力に、心より敬意を表します。

また、住民による話し合いは、これら委員会だけでなく、身近な暮らしの場である町会・町内会での地域福祉委員会をはじめ、ボランティア団体や当事者団体等でもおこなわれていることでしょう。もちろん、計画の委員会と連携した市社協の理事会、評議員会も住民代表が集い、地域福祉の方針を話し合う重要な場です。

このように様々な集団に属する住民が、小地域から市域の各層で、当面する地域問題を常に話し合うこと自体が地域福祉活動であり、それらを全体で共有し、共通の目標を合意して、その達成のために協同（協働）することが、活動計画の策定・推進プロセスにおいて最も重要です。

### 2) 活動計画の評価・推進のあり方

計画の評価は、一般的に「何をしたか、いくつできたか」といった数値的な評価に目がいきがちですが、数値だけで評価できないのが地域福祉の難しさです。ゆえに活動計画の評価は「進行管理」というニュアンスよりも、未来志向で「評価しながら推進する」という委員会の姿勢が重要です。

様々な活動を通して、どのようなつながりができたか、孤立の解消は進んだか、地域はどのように変化したのかといった質的評価をおこない、そこに至るプロセスも評価します。さらに計画策定段階では見えなかった、新たな地域生活課題についても協議することが必要です。

また、単純に〇×では評価できないからこそ、評価委員会単体ではない、地域に開かれた多様な話し合いの場で、住民、活動者自身が協議しながら課題を分析・評価していることに価値があります。そして、地域の多様な対話と学習の場を支援し、計画的な地域福祉の推進体制を構築することに、社協の固有の専門性があります。

今後も、益々の能美市の地域福祉の発展に期待し、私も微力ながらお手伝いできればと思います。

## 井岡 仁志 氏 プロフィール

奈良県生まれ。2003年から滋賀県朽木村・高島市社会福祉協議会で地域福祉・ボランティア活動の推進業務を主に担当し、2015年から常務理事、事務局長。2017年3月に退職し同年7月ローカリズム・ラボ設立。全国の行政・社協・NPO・企業等を対象に地域福祉、ボランティア、災害支援に関する講演・コンサルティング業務をおこなっている。社会福祉士。

- ・ 関西学院大学人間福祉学部 非常勤講師
- ・ 広島県社協 地域共生推進専門アドバイザー
- ・ 広島県安芸太田町 地域包括ケアシステム推進活動アドバイザー
- ・ 広島県廿日市市社協 地域支援アドバイザー
- ・ 徳島県美馬市社協 地域福祉活動計画アドバイザー
- ・ 兵庫県西宮町社協 共生のまちづくりアドバイザー
- ・ 滋賀県野洲市 第3期地域福祉計画推進委員会 委員長
- ・ 滋賀県近江八幡市社協 災害ボランティアセンター運営連絡協議会アドバイザー
- ・ 滋賀県竜王町社協 地域福祉活動実践アドバイザー
- ・ 愛知県武豊町社協 地域防災力向上アドバイザー
- ・ 認定NPO法人しがNPOセンター理事
- ・ 石川県能美市社協 地域福祉活動計画 評価委員会アドバイザー 他

### ※ 評価委員会アドバイザーについて

令和5年度能美市地域福祉活動計画第1回評価委員会（R5年8月5日）において、第三者的視点や客観的な意見が必要ではないかという声を受け、「令和4年度 春 まち ぽかぽか プロジェクト 地域福祉のつどい」で講演された井岡氏にアドバイザーを依頼することに至りました。